

第4領域



「地域と世界を生き生きと つなぐ環境情報の架け橋」

(環境情報の世界発信を通じた日本および各地域
の共時的精神空間の形成)

この領域は環境に関する情報を世界へ効果的に発信し、コミュニケーションする手法を考えることを目的としています。

日本の知恵を世界に

＜研究・活動名＞「持続性の知恵」の国際的展開を目指した環境コミュニケーション手法開発のための基礎的研究

＜代表者／団体＞早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科准教授 納富 信
特定非営利活動法人環境文明 21

コミュニケーション手法を用いて世界の「持続性の知恵」を統合し、普及させることで、「知恵の架け橋」を築くことを目指し、本プロジェクトでは、日本の「持続性の知恵」のwebコンテンツの作成、フォーラムの試行的開設と運用、基礎情報の整理を実施しました。

思想、価値観、感性の面での世界貢献を果たす土台作りのためには、いくつかのハードルを越えることが必要となることがわかりました。

環境と日本を考える

＜研究・活動名＞早稲田環境塾のコンテンツを世界に発信する手法及びその評価の研究

＜代表者／団体＞早稲田大学大学院アジア・太平洋研究科教授 天児 慧・原 剛
日本環境ジャーナリストの会

環境情報の世界への発信が急務となっており、「早稲田環境塾」で取り上げられた題材を加工し国内外に発信します。この際コンテンツの選択、加工法、伝達法を①国内外に関心をもたれるもの、②効果的な発信につながるか、の2つの要素から検証することによってよりよい環境情報の発信法を確立するのが目的です。

現在は特に急成長を続け、人口比でも経済力比でもその地位を急速に上げている中国、韓国を主な対象として様々な検証を実施しています。現場からのメッセージを自分なりに感じ取り、本当の「環境」を実感する。「まさに現場から学ぶ」に嘘はないのです。日・中・韓の環境NGOやジャーナリストの交流会を開いています。普通と違うところは早稲田環境塾では交流セミナーを山村で行っていることです。ここでも現場を通して考えるということは一貫しています。現場を通して得た成果を日・中・韓のメディアを通じて、配信しています。

W-BRIDGE の特徴は、学生が積極的に参加していることでしょう。研究・活動メンバーでもある学生が、W-BRIDGE の堀口代表（早稲田大学副総長）に本プロジェクトの意義などをインタビューしました。

Q W-BRIDGE の意義は？

大学はひとつの大きな組織ですが、大学だけではできないことがたくさんあります。今回、株式会社ブリヂストンのご配慮で企業と大学が連携して民間団体の方々、学生の皆さんと協力し合うプロジェクトが実現したことに感謝しています。

Q W-BRIDGE に学生が参加する意義は？

早稲田大学では、教育、研究はもちろんのこと社会貢献を重要な柱に位置づけています。平山郁夫記念ボランティアセンターを中心に、活動が展開されており、多くの大学や企業が関心を示しています。W-BRIDGE においても、学生の参加によって、プロジェクトの幅が広がり、学生の勉強にもなることを期待しています。

Q W-BRIDGE にかかわる人たちへの期待は？

学生のみならず、このプロジェクトに参加していただいている皆さんにお願いしたいことは、自信を持って積極的に情報を発信して欲しいということです。メディアでも自分たちで作る印刷物でもかまいません。私たちもその支援に全力を尽くしたいと考えています。

Q W-BRIDGE の今後の課題は？

課題はいろいろあります。たとえば、W-BRIDGE は大学教員と民間団体、学生の連携で応募してもらい、審査を通じて研究・活動を選択していますが、大学教員が多忙であったり、相互の意思疎通が足りなかったりするケースも見られますので、この点は改善していかなければと思います。

W-BRIDGE では、活動設計→研究→評価→実行のサイクルと社会への情報発信を万全なものとするために、下記の活動を行っています。

- ・ 効率的な個別研究のための情報の収集及びテーマ設定、評価指標の開発と評価実施
- ・ 個別研究委託の成果のとりまとめ支援
- ・ シンポジウム・研究発表等イベントの開催
- ・ 組織的な情報発信
（公開講座、学術誌「BRIDGE」、研究レポート等情報発信体制の整備）

◆執行組織（運営委員兼任）

代表	堀口 健治（早稲田大学副総長）
代表代行	堀尾 正 毅（早稲田大学）
副代表	平 田 靖（ブリヂストン）
事務局長	永 井 祐二（早稲田大学）
研究マネジメントチームリーダー	岡 田 久 典（早稲田大学）
研究員	中 島 勇 介（ブリヂストン）

◆運営委員

永 田 勝 也（早稲田大学）
勝 田 正 文（早稲田大学）
碓 井 俊 一（ブリヂストン）

